

宮城県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-1	七ヶ宿		七ヶ宿町	国道113号線	<p>七ヶ宿という町名は、江戸時代、ここを通っていた羽州街道の宿場がこの地域に7か所あったことから、そう呼ばれるようになった。「道の駅」は宮城県最大の七ヶ宿ダム湖畔にあり、羽州街道の歴史やダム水没前の七ヶ宿の様子を伝える「水と歴史の館」が隣接している。</p> <p>平成5年宮城県第1号としてスタートした「道の駅」は平成26年4月、広大な駐車場のある現在地に移転オープンした。今の場所にはダム湖と約24ヘクタールある自然休養公園が広がり、春には一面の桜、秋には山々の紅葉と、季節によりさまざまな表情を楽しむことができる。</p> <p>売店では山菜やキノコ、野菜、果物、加工品などを販売しており、シソのエキスが入ったソフトクリーム(しっそソフト)や笹ゆべしが人気だ。また、レストランで提供している「七ヶ宿ダム湖カレー」や蔵王担々麺が好評となっている。</p>
宮城-2	津山	もくもくらんど	登米市	国道45号線	<p>津山は日本三大虚空蔵尊のひとつとされる柳津虚空蔵尊と、国指定重要文化財の不動明王が置かれている横山不動尊があるなど、歴史にゆかりの深い町だ。</p> <p>昔から杉の名産地として知られていて、地元産杉材を使った「杉矢羽模様」の木工品を展示販売する「クラフトショップもくもくハウス」が自慢の「道の駅」で、ここでは職人手作りの木工品が展示販売されている。また、地域の特産品「油麩」の販売もしており、お食事処・木里口(きりくち)で名物「油麩丼」を提供している。</p> <p>産直とときめき野菜は、季節の野菜をはじめ米やワサビ、つと納豆、餅や漬物などの加工品が揃っている。駄菓子コーナーもあり子供達に人気があり、旬の商品を詰め合わせた「ときめきバック」も販売している。</p>
宮城-3	三本木	やまなみ	大崎市	国道4号線	<p>宮城県で唯一、国道4号に隣接した「道の駅」。明治時代の初めから昭和の中ごろまで、この地域では石炭の一種である垂炭鉱があり、盛んに掘り出されていた。そのため「道の駅」には「三本木垂炭記念館」があり、当時の坑道の様子の再現をしている。採鉱風景や採掘道具の展示、重さ10トンという日本一大きい垂炭塊の展示などがある。</p> <p>「道の駅」の近くには、春に約200万本の菜の花、夏は約42万本のひまわりが丘一面に咲き誇る「ひまわりの丘」があり、「道の駅」ではひまわりを売りにしている。生産者の顔が見える新鮮な朝採り野菜や生花、地場産品が並んでいて、日本みつばちが集めた三本木花見山産のはちみつ「幻の百花蜜」が人気商品のひとつとなっている。レストランではひまわり卵かけご飯が好評である。</p>
宮城-4	路田里はなやま(ろうたりにいはなやま)	自然薯の館	栗原市	国道398号線	<p>江戸時代に仙台藩と秋田藩の藩境にあった寒湯(ぬるゆ)番所(国指定史跡)をイメージした建物になっている。「花山越」と呼ばれた山越えの街道に設置された関所で、ここを通る行人を取り締まっていた。</p> <p>「自然薯の館」という愛称にある自然薯(じねんじょ)とは山芋(ヤマノイモ)のことで、地域の特産品となっている。売店ではその自然薯が豊富に販売されているほか、地元産や栗原市内の野菜、山菜、キノコなどを販売している。なかでも目を引くのが栗原市内の地酒だ。市内には6軒の造り酒屋がある日本酒の里で、そこで醸造された銘酒が数多く店頭に置かれている。</p> <p>レストランでは自然薯のどろろ汁を始めとして、揚げとろろ、自然薯ざるそば、自然薯定食などの自然薯料理が人気となっている。そのほか、岩魚素揚げ、岩魚塩焼きなどこの「道の駅」独得のメニューがそろっている。</p>
宮城-5	大谷海岸	はまなすステーション	気仙沼市	国道45号線	<p>東日本大震災で津波の直撃を受け、旧駅舎は解体。その後、以前の敷地などで仮営業していたが、国道45号のかさ上げ工事に伴う移転を経て、令和3年3月28日に大規模リニューアルオープンした。大谷海岸を見渡せる2階テラスが評判となっている。また旧本吉町の魚で「道の駅」のシンボルだったマンボウが泳ぐ映像を、プロジェクションマッピングで投影している。</p> <p>地元でとれた新鮮な野菜や魚介類が自慢の「道の駅」で、産直コーナーでは地元であがった魚の販売がされていて、春のシラウオなどの販売は人気で次々と売れていく。また、地元気仙沼パン工房の「ピーナッツクリームサンド」「帆布ポトルバッグ」を始めとした「駅おおすすめ! 大谷海岸道の駅土産5選」はオリジナルマンボウデザインも素敵なお土産にピッタリ。</p> <p>レストランでは、「気仙沼極上バラ寿司」、メカジキのうま味がコク深い味わいの「気仙沼カレー」など、気仙沼ならではの海鮮が揃い踏みしている。はまカフェではサメかつバーガーがお手軽に楽しむことができる。</p>
宮城-6	おおさと	大郷ふるさとプラザ	大郷町	県道9号線	<p>平成30年11月にイメージを一新するリニューアルを行い、生まれ変わった「道の駅」。「大郷町を中心に、黒川・県北地域の“美味しい”を集めました!」をキャッチフレーズに、来館者の期待に応える品ぞろえが評判となっている。</p> <p>入り口はいつでもすぐが「座・ずんだ」として「ずんだ」商品がずらりと並んでいる。その隣が「もち市」コーナーで、餅の食文化が盛んな大郷の各種お餅が、さらにその奥は「アグリエの森」というコーナーで、仙台市内のお茶の井ヶ田・喜久水庵のオリジナルと定番商品が揃っている。</p> <p>物産スペースの中心はおおさと健康野菜市場で、店内に2台の軽トラックを置き、荷台や商品棚には野菜を始めとした大郷の取れたてがびっしり! 栄養たっぷりの大郷の特産野菜は、みんなの健康野菜として、食生活が乱れがちな現代人にやさしく、おいしく、パワーを送ってくれる。また、地元菊池牧場の放牧牛乳を使ったソフトやヨーグルトを始めとした乳製品を楽しむことができる。</p>
宮城-7	米山	ふる里センター-Y・Y	登米市	国道346号線	<p>「道の駅」の前に堂々と立つブロンズ像は、米山町津山出身の第三代横綱・丸山権太左衛門(まるやま ごんたざえもん)で、江戸相撲の横綱を務めた力士だ。</p> <p>その横綱像が見守る「道の駅」には豊かな大地で育った農産物・地場産品が豊富で、一年中フレッシュな産品が並んでいる。特に米山産町イチゴ・もういっちは、仙台方面からわざわざお買い求めに来るお客様がいるほど。また、メロン、パッションフルーツなどの果物が人気で、イチゴ、パッションソフトクリームも評判。地元産の大豆で作る「よねやま納豆」「ほのかな里納豆」という地元ならではのローカル納豆は、昔ながらの味と粘りで人気商品だ。</p> <p>食事は、辛さ30倍までお好みで選べ食べられるチキン・ポーク・ハンバーグのスープカレーが人気メニューとなっている。</p> <p>春には1ヘクタールの敷地に60種類10万株のチューリップが咲き誇る「チューリップまつり」が道の駅西隣園場で開催される。(4月下旬)</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-8	あ・ら・伊達な道の駅		大崎市	国道 47号線	伊達政宗公が青年期を過ごした地・岩出山には岩出山城跡、仙台藩の藩校の一つだった有備館とその庭園、武家屋敷などが残る、歴史の香り豊かな城下町だ。また、熱気球の係留体験搭乗があり、「世界農業遺産」に認定された「大崎耕土」を気球に乗って見渡すことができる。 その岩出山を通る国道47号沿いに作られた「道の駅」には大崎市内の特産品が豊富に並べられている。昔から作り続けられている「岩出山納豆」「岩出山凍み豆腐」、一斗缶(18リットル)に入った「岩出山かりんとう」は岩出山の伝統的な名産品だ。また特産品販売所には、鳴子の名物「栗団子」が置かれている。 リニューアルされたレストランはオープンな雰囲気になり、お昼はたくさんの人でにぎわっている。このほか、ご存じロイズチョコレートのコーナーがさらに充実したほか、2台のロイズチョコレートの移動販売車を用意し、東北各地の「道の駅」等で出張販売を行っている。
宮城-9	森林館	森の茶屋	登米市	国道 346号線	宮城県と岩手県の県境付近にあり、近くを北上川とその支流の二俣川が流れ、ゲンジボタルが生息する自然豊かな里山にある「道の駅」だ。 「道の駅」の施設は、森林館本館と森の茶屋の二つからなっていて、2階建て12角形の本館では地元の名工展示として、「瑞樹窯」と「夢想同人窯」で焼き上げた陶芸品や木工品、草木染のバッグ、小物の展示販売を行っている。 森の茶屋では、地元でとれる山菜、キノコのほか、北上川河畔の豊かな恵みを受けた根菜類が販売されていて、大きくて味がいいと評判となっている。また、人気商品として「源氏ポタルアイス」「天然栽培乾燥まいたけ」があるほか、弁当コーナーを設けて販売に力を入れている。店頭で置かれている弁当のほか、予約注文による特注弁当も受け付けている。 食堂では登米市のB級グルメの「あぶら麩丼」、つるつる食感の「森の茶屋はっと定食」、地元のシタケと沖縄の塩を使った「森のキリシタンメン」が人気となっている。
宮城-10	上品の郷 (じょうぼんのさと)		石巻市	国道 45号線	「上品(じょうぼん)」とは極楽浄土を意味する言葉で、「道の駅」の名前は石巻市のほぼ中央にある標高467メートルの上品山から名付けられた。 「道の駅」の敷地外にあった路線バスの停留所を敷地内に移設したり、バスの待合所を「道の駅」内に設けるなどが評価され、平成29年度に国土交通省からモデル「道の駅」地域交通拠点部門に選定された。 全体が非常に大きな施設で、その中心は、旬の野菜や海産物の地場産品を販売する農産物直売所・ひたかみとなる。地元石巻市河北地区産のエコファーマー認定を受けた野菜をはじめ、餅、お惣菜、水産加工品、花、米、菓子などがそろっている。 フードコートは、出来る限り石巻圏内の素材にこだわって、安心安全で美味しい料理をご提供できるように務めている。石巻北部に位置する飯野川地区の食文化から誕生した「サバだしラーメン」、ご当地グルメの「石巻焼きそば」が人気となっている。また、珍しい含鉄塩化物泉の泉質の「ふたこの湯」を併設し、観光客や地元の人たちに喜ばれている。 各種キッチンカーや鮮魚の移動販売車の出店も盛んで、毎日入れ替わりで美味しいものを提供している。
宮城-11	みなみかた	もっごりの里	登米市	県道 1号線	南方は野鳥の宝庫である伊豆沼・長沼の南西側にあり、広々とした田園風景が魅力的な地域となっている。「道の駅」の愛称「もっごりの里」は「もっごりと盛り上がるように」の思いで付けられたもので、ふんだんな野菜に「びっくり」、おいしいものを食べて「ほっこり」、元気で「もっごり」がコンセプトの「道の駅」だ。 南方一番の売りは「もっごり一番二ラ」。南方の二ラは、肉厚で甘くて香りが良い。二ラに負けない人気パン工房で作られるパンだ。特に焼き立てのぶどうパンは「都会のベーカリーに引けをとらない味！」とファンがたくさんいて、次々と売れてゆく。また、開店から人が集まるのが「手作りお惣菜コーナー」で、地元の野菜を使った煮物やしそ巻き、名物のごぼうチップスは、優しいおふくろの味と評判だ。 レストランでは、地場産の新鮮食材を堪能できるバイキングがあり、これら人気品々は餅、惣菜、パンの3工房とレストラン厨房が裏方として並び、お客様に提供している。
宮城-12	村田	歴史と蔵とふれあいの里	村田町	県道 14号線	江戸時代、この地域で作られる紅花(べにばな)は最上級品と評価され、江戸や奥羽山脈を越えて山形まで運ばれ、最上川を下って京都に届けられた。村田はその紅花で栄え、多くの蔵や豪勢な門構えが残っていて、「みちのくの小京都」ともいわれる「蔵の町村田」となった。「道の駅」は蔵の町をイメージした外観になっている。 物産交流センターでは、村田町の特産品となっているそら豆を使ったアイスクリームや刺身こんにゃく、うどんなどそらまめを入れた加工品、朝採りの新鮮野菜や漬物など地場産品を取りそろえた物産コーナーがある。「レストラン城山」では、村田町オリジナルのてんぷらやかき揚げのそらまめうどん、城山定食を食べることができる。 毎年「道の駅」で色々なイベントを開催しているが、一番人気は6月中旬に開催する「そら豆まつり」だ。
宮城-13	三滝堂 (みたきどう)		登米市	国道 398号線	高速道路の無料区間には、全国的にサービスエリア(SA)はほとんどないが、三陸自動車道の三滝堂インターチェンジ(IC)の敷地内に建つのが道の駅・三滝堂で、平成28年4月にオープンした。三陸自動車道から一般道に下りずに行け、さらに国道398号にある三滝堂IC入口からも行けるという便利さで、利用者が毎年増え続けている。付帯施設としてキャンピングカーで泊まれるRVステーションやドッグランも設置。ドライブ中のペットのリフレッシュにも活用できるようになっている。 「道の駅」は、内陸部である登米市と沿岸部の三陸地域の観光総合窓口の役割の他、登米ブランドをはじめとした特産品や農産物の販売もしている。 物産販売コーナーでは万能和風だし「素」は「登米のだし」やメイブルムロンパンが人気で、レストランではボリューム満点「ステーキ定食」や登米のソールフード「はっと」のほか、麺類は料理長いちおしの焼き豚を7枚ものせた「味噌チャーシュー麺」などがある。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-14	おおさき		大崎市	国道 108号線	令和元年7月にオープンした「道の駅」。古川の町なかに作られた、都市型の「道の駅」で、東北にはほとんどない新しいタイプとなっている。国連の食糧農業機関(FAO)が認定する制度「世界農業遺産」に国内で9番目に認定され、その登録名である「大崎耕土」で育った新鮮で安心・安全な農畜産物や加工品の販売、それらの食材をふんだんに使用したカフェメニューが売りとなっている。コミュニティカフェ「あじわい亭」は地元でつくられているトマト「デリシャストマト」を使用したラーメン「デリシャスファームの塩トマトラーメン」を提供している。 日によって、「カフェ ザ メープル」「Aimu Crepe(アイムクレープ)」、とんかつの「まつキッチン」などのキッチンカーも出店している。 防災にも力を入れていて、隣接する消防署や行政と連携し、避難訓練を行ったりするほか、かまどベンチ、マンホールトイレ、発電設備や燃料タンクなども設備し、災害に備えている。
宮城-15	かくだ		角田市	県道 272号線	令和元年5月にオープンした「道の駅」。角田市の新しい交流拠点となるよう、地元の生産者の方々と肩を組んで運営している。 角田市産を始め、宮城県仙南エリアの「いいものセレクトショップ」として多彩なアイテムを取り揃え、角田の5つの“め”(米・豆・梅・夢・姫)と、近くにある「かくだスポーツビレッジ」と連携して、スポーツをテーマに独自性を訴求して行こうとしている。 メイン施設となる直売所の一角には、宮城蔵王のたまご専門店「森の芽がきたまご舎」がショップを展開。「おいしいものはうまれたて」をモットーに、「蔵王のたまごぶりん」をはじめ、各種たまごスイーツを販売している。 フードコートにある「ぱびハウス」では、イタリア直輸入の石窯で焼き上げた本格イタリアンピザを提供している。「まわりパリパリ」、なかフワフワの薄めの生地が特徴で、ピザやパスタには角田産の旬の野菜をトッピングしている。「フードコート」では角田野菜を使った通常メニューのほか、「たれカツ丼」などの月替わりメニューが新たに始まって好評だ。
宮城-16	硯上の里おがつ (けんじょうのさとおがつ)		石巻市	県道 238号線	硯上(けんじょう)という名称は、旧雄勝町特産の硯(すずり)を生産する硯上山にちなんで名づけられたもの。地域は日本最大の硯の産地で、「道の駅」に隣接する「雄勝硯伝統産業会館」があり、日本最大という156センチ×76センチ、重量約500キログラムの硯が展示されているほか、雄勝石を使用した硯や石皿などが展示販売されている。 もう一つの雄勝の名物は海産物で、特にホタテは自慢の一品。山からリアス海岸に流れ出す川の水には養分が多く含まれ、プランクトンが豊かな海となっている。そこで育ったホタテは肉厚・プリプリで、身の引き締まった深い味わいは絶品。また銀サケ養殖も盛んで、ホタテと合わせ「道の駅」の人気商品になっている。ほや、各種地魚、海藻などと合わせてお土産に。 また「道の駅」には「伝八寿司」、「ウズマキ眼鏡珈琲店」、海産物料理が売りの「海里(みさと)」、乾物や手作りパンを販売する「もんまや商店」などの食のお店のほか、雄勝の海を楽しむアクティビティツアー企画・運営する「渚泊station」などのテナントがあり、雄勝を多方面から味わい楽しめるようになっている。 「道の駅」の直ぐ目の前は雄勝漁港。天気の良い日はウッドテラスに置かれている木製テーブルや椅子に座り、海を眺めながらひと時を過ごすことができる。
宮城-17	おながわ		女川町	国道 398号線	硯上の里おがつと一緒に、令和3年4月にオープンした「道の駅」。津波で被災した女川町の商店街を復興させるため、新たにシーバルビア女川という商店街が作られた。地元市場ハマテラスという新規商業施設と一体となって「道の駅」に登録し、港町女川再生の中心となることを期待されている。全体は30店舗以上のお店で構成されていて、JR女川駅から海に向かった、ゆるい下り坂の素敵な「道の駅」となっている。 町内の商店の多くがここに集まっていて、買い物するにも迷うほど多彩なお店が揃っている。地域の名物である魚介関係のお店は、鮮魚、乾物、かまぼこ、和・洋・中華の料理店などが揃っているので、食事やお土産に困らない。 また、ちょっと珍しいお店として、スペインタイルの制作・販売の「みなとまちセラミカ工房」、段ボールで車など作る「ダンボールギーニ」、ダイビングショップ「宮城ダイビングサービス ハイブリッジ」、オリジナルTシャツ制作・販売の「MARUSAN」などがある。また、日本茶と紅茶専門店メーカー「ティーバルティーファクトリー」ではアフタヌーンティーを楽しむことができるという、他の「道の駅」ではちょっとお目にかかれなようなお店が並んでいる。